



## スプレーギク新品種「スプレー愛知夏4号」を開発 (令和5年2月品種登録出願)

本県のスプレーギク出荷量は全国第1位で、主な産地は田原市、豊川市です。スプレーギクには、主に7月から9月にかけて出荷する夏秋系品種と、10月から翌年6月にかけて出荷する秋系品種があります。

「スプレー愛知夏4号」は花卉が黄色の夏秋系品種で、暑さや強い日差しによる生育障害(芽焼け、葉焼け等)の発生や開花の遅れが少

なく、夏季高温期においても、安定した出荷が可能となります。また、茎の下部から伸びてくる側枝の数が少なく、収穫や調整がしやすい品種です。

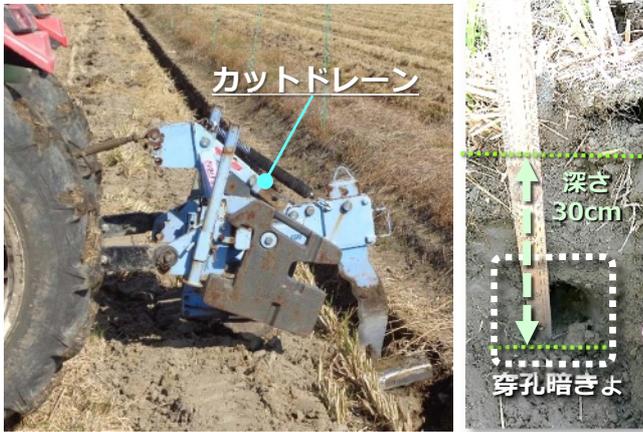
平成27年に品種登録した黄色の夏秋系スプレーギク品種「スプレーアイチ夏1号」の後継品種として、普及を進めていきます。

(東三河農業研究所)



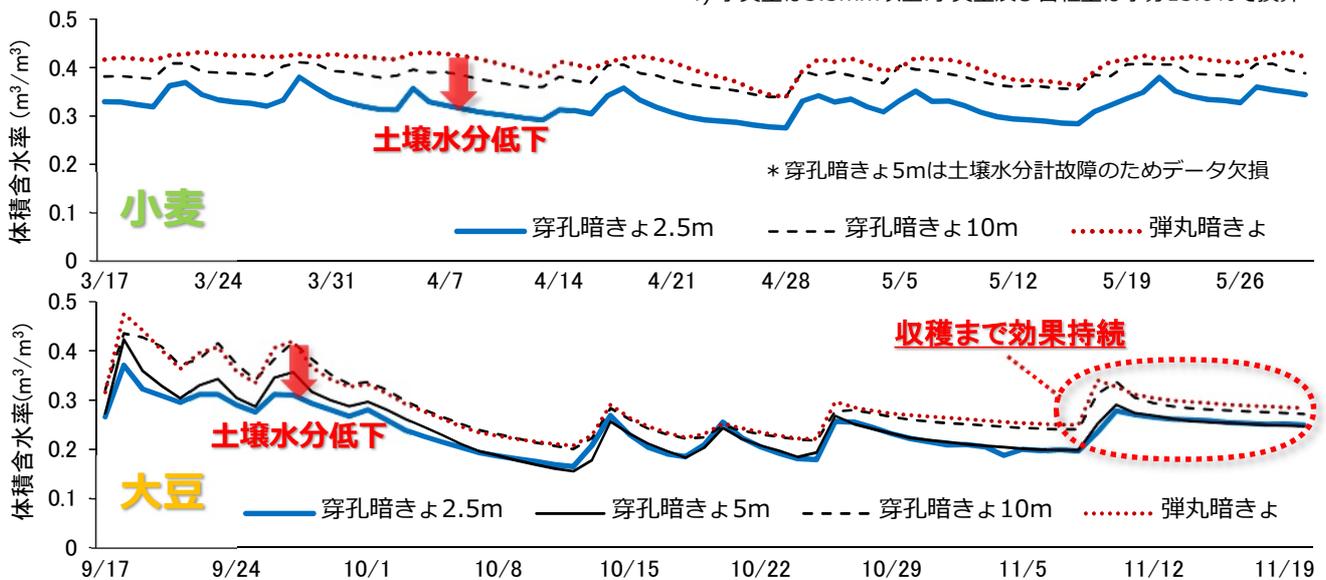
# せんこう カットドレーンによる穿孔暗きよの排水性向上効果の検証

小麦及び大豆の収量調査の結果



| 施工内容                    | 小麦(きぬあかり) |      | 大豆(フクユタカA1号)                        |                                     |            |      |
|-------------------------|-----------|------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------|------|
|                         | 方法        | 間隔   | 精麦重 <sup>3)</sup> 千粒重 <sup>3)</sup> | 子実重 <sup>4)</sup> 百粒重 <sup>4)</sup> |            |      |
| 穿孔 <sup>1)</sup><br>暗きよ |           |      | kg/10a                              | g                                   | kg/10a     | g    |
|                         |           | 2.5m | <b>615</b>                          | 37.5                                | <b>281</b> | 31.4 |
|                         |           | 5m   | <b>580</b>                          | 36.9                                | <b>253</b> | 30.7 |
|                         |           | 10m  | 495                                 | 36.4                                | 195        | 29.0 |
| 弾丸 <sup>2)</sup><br>暗きよ |           | 5~8m | 505                                 | 38.0                                | 233        | 31.6 |

カットドレーンによる穿孔暗きよの施工状況



小麦及び大豆の栽培期間中における土壌の体積含水率

本県では水田転作で麦・大豆を栽培する場合には額縁明きよや中明きよ、弾丸暗きよ等の排水対策が必須です。これらを実施しても、湿害で収量が低下する事例は少なくありません。

そこで、従来の弾丸暗きよよりも空洞が潰れにくい穿孔暗きよについて、その排水性向上効果の検証を行いました。小麦播種前に、農研機

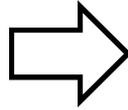
構が開発したカットドレーンを用いて、中明きよに直角、2.5m及び5m間隔、深さ30cmで施工し、中明きよに直接排水できるようにしたところ、小麦作と大豆作の栽培期間を通して、弾丸暗きよ施工ほ場よりも土壌水分が低下し、収量が向上することが判明しました。

(作物研究部)

本研究は農林水産省 委託プロジェクト「センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの開発」で実施しました。



## キャベツ栽培と兼用できる タマネギ一条植え移植機に適した栽培方法の確立



11～12月どりキャベツ栽培後、1月にタマネギを定植



タマネギの株間（10cm）にも対応した  
全自動野菜移植機PVZ100（㍉セキ）

根鉢形成程度



不十分

適正

過密

機械移植に適した200穴セル成型苗

豊橋・田原市では11月から翌年6月にかけてキャベツを出荷していますが、初夏どりキャベツ（6月収穫）は病害虫や裂球の発生が多いうえ、単価も安いことが多いため、他品目の作付けを検討するキャベツ専作農家が増えています。

近年、年内収穫キャベツの後作に栽培できるタマネギが注目されていることから、新たにキャベツとタマネギのどちらも定植できる一条植え全自動移植機が開発されました。現在普及している移植機は、概ね株間20～60cm間隔ですが、本機は、タマネギに対応したより狭い10cm間隔の株間で定植できます。本機の価格は従来の移植機とほぼ同等のため、本機を活用すれば、移植機、セルトレイ、畝立て機がキャベツとタマネギで兼用できるため、キャベツ専作農家は少

ない投資でタマネギ栽培に取り組むことが可能になります。

一条植えタマネギの機械移植に適した200穴セルトレイでの育苗期間を検討したところ、育苗期間が短いと根鉢の形成程度が不十分で分球の発生が増加して品質が低下し、育苗期間が長すぎると根鉢は過密となりセルトレイからの苗の取り出しが困難となりました。育苗期間の積算平均気温1,100℃が適正な根鉢形成の目安であることがわかりました。

本研究においては、このほかにも施肥方法や除草方法を検証し、一条植えタマネギ栽培マニュアルとしてまとめ、関係者に配布しました。生産者が活用することで生産性の安定につながることを期待されます。（東三河農業研究所）

本研究は井関農機株式会社、株式会社㍉セキ関西中部と共同で実施しました。

# 研究トピックス

## 水稲「愛知135号」出穂期予測技術を開発

水稲「愛知135号」は、本県とJAあいち経済連との共同研究により育成した新品種です。本品種のカメムシ防除期の把握や成熟期予測等に活用するため、発育指数(DVI)を用いた出穂期予測技術を開発しました。本技術は2021,22年の現地検証で、実用的な精度であることを確認し、栽培管理支援ツールに実装しています。本ツールを活用し、計画的に栽培管理を実施することが期待されます。(作物研究部)

栽培指導  
品種を選択し、予測ボタンをクリックしてください。

水稲(愛知135号) 予測 語句説明

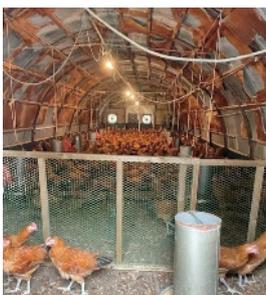
| 品種     | 移植日  | 出穂期  | カメムシ防除<br>斑点米カメムシ | 成熟期  |
|--------|------|------|-------------------|------|
| 愛知135号 | 5/10 | 8/10 | 8/17              | 9/17 |
|        | 5/15 | 8/11 | 8/18              | 9/19 |
|        | 5/20 | 8/13 | 8/20              | 9/21 |
|        | 5/25 | 8/15 | 8/22              | 9/23 |
|        | 5/30 | 8/18 | 8/25              | 9/27 |

栽培管理支援ツールの予測画面

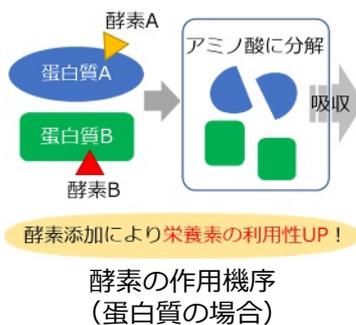
本研究は名古屋大学、JAあいち経済連との共同研究で実施中です。

## 養鶏における飼料価格高騰対策 ～未利用資源及び飼料用酵素の利用～

近年、飼料価格が高止まりとなり、養鶏経営を大きく圧迫しています。その対策として、肉用名古屋コーチンにおいて県内で発生した食品残渣などの未利用資源を飼料原料として有効利用し、生産コストを低減する研究を実施しています。さらに、産卵鶏用飼料に飼料用酵素を添加し、鶏の栄養利用性を高め収益性を向上させる取組を行っています。今後、実証試験等を通じて飼料の実用化を目指します。(畜産研究部)



実証試験の様子



肉用名古屋コーチンの研究は地域飼料資源循環促進事業、産卵鶏の研究の一部はJAあいち経済連との共同研究で実施中です。

## 手まり八重咲きアジサイの早期作出技術を開発

装飾花に覆われ、花型が球状の「手まり咲き」と、花弁が多い「八重咲き」の特性を併せ持った「手まり八重咲き」アジサイに消費者ニーズが高まっています。しかし、「手まり八重咲き」アジサイを作出するのは難しく、通常6年もの期間が必要でした。そこで、八重咲きを判別できるDNAマーカーによる選抜技術と胚珠培養や日長・温度処理による開花促進技術を組み合わせることによ



り、作出までの期間を3年に短縮する技術を開発しました。これにより有望な新品種の育成を早期に実現します。

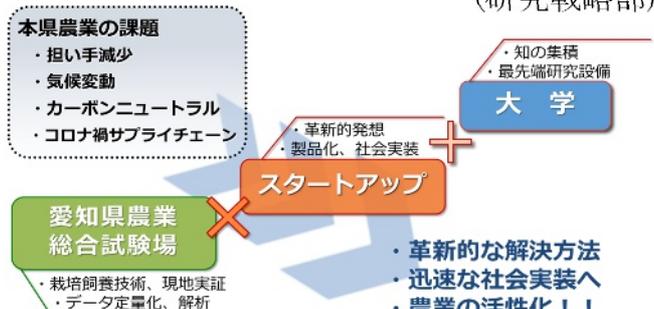
(園芸研究部・  
環境基盤研究部)

手まり八重咲きアジサイと装飾花(右下)

## あいち農業イノベーションプロジェクトにおいて共同研究をスタート

本県では、当事者が有する技術とスタートアップや大学の新しいアイデアを活用することで新たな農業イノベーションを創出する「あいち農業イノベーションプロジェクト」を2021年度から進めています。2022年度には、本県農業が抱える課題の解決に向け、当事者とスタートアップ等が行う共同研究課題を選定し、事業化可能性調査等を行いました。その結果を基に、本年度から社会実装に向けた共同研究をスタートしました。

(研究戦略部)



あいち農業イノベーションプロジェクトの概要